

平成23年 7月28日

パールレース賞杯の由来について
(第52回パールレース前夜祭における説明)

JPN4010 Nadja
白崎 謙太郎

鳥羽レースは、近年お亡くなりになられた土井 悦さんらが提唱されて始められました。土井さんは戦争直後からのヨットマンで、1960年代には「舵」にユーモアあふれるエッセイを連載され、古いヨットマンにはおなじみの方で、NORCの創設メンバーのお一人でした。

その土井さんが京都の繊維関係のお仕事をされていた井上 正春さんの「フルールブルー」という横山 晃さん設計の25フィートJOGで確か横浜から名古屋まで航海され、その間に鳥羽レースを実施するに当たり寄港できる港や海流、気象などの詳細な調査をしながらの航海でした。その報告は「舵」にも掲載され、それが元になって鳥羽レースが始まったのです。始めのころは帆走委員長をされました。

特に遠州灘は寄港地の無い長丁場で、「フルールブルー」のような小型外洋ヨットでの走破は初めてだったはずです。

この「フルールブルー」の航海が西行きだったため、第一回はそうしたのですが、以後は鳥羽スタートとなりました。

さて記録を見ますと、第一回に「チタ」の優勝の時のファーストホームは「相模Ⅱ世」、その後「どんがめ六世」、「バレリーナ」「竜王丸」、次の「のぶちゃん」は安岡さんの横浜の船でしたが、第7回には「モサⅢ」と、これまた小網代の艇でした。この時私は鳥羽レース初陣で「どんがめ7世」24.6フィートのクルーでした。この時のレースは、世界のファーストホーマー「ストームフォーゲル」が正式参加し、巨大なレーサーをまじかに見た感動を覚えています。また我が国外洋ヨット界も大型化の象徴のように陳 秀雄さんの「ふじ」と三橋美智也さんの「アニー」がストームフォーゲルを並んで追走する姿を撮りました。

バレリーナ杯は第三回の優勝艇の「バレリーナ」のクリスチャンソンさんが寄贈したものです。彼はYYC（横浜ヨットクラブ）の会員で、わたしの拙著「日本ヨット史」にはこのクラブの主のような、ラフィンジュニアと一緒に写っている写真が載っています。

(実行委員会注釈「ラフィンジュニア」：わが国最古の「横浜ヨットクラブ」の中心人物「トーマス・メルビル・ラフィン」のご子息で、横浜の海を知り尽くしたヨットマン)

前年優勝の「どんがめ六世」と同じもので、キールを確か10センチくらい浅い設計にしました。リグは「どんがめ六世」と同じジャンパーストラットのついたミッドリグでした。

この年の強風のスピランで、ブローチングし、ダイヤモンドステイあたりを痛めたのですが、そのまま強気にスピンを降ろさず、ぶっちぎりの優勝でした。

1965年5月の大島レースは、まれにみる時化で、参加23艇中「どんがめ7世」以外全艇避難リタイアで、「どんがめ7世」は賞の全てをかつさりました。この時渡辺家で祝勝会をクルー4人でしていた時、長身のクリスチャンソンが現れ、リタイアしたのを恥ずかしそうに、

スピンプールを流したので、また図面を造船所に送ってほしいと言っていました。彼はアメリカの軍属で、通信担当だということでした。

竹下 政彦さんは「シイラ」というあだ名で、有名な戦前からのヨット乗りです。あだ名の「シイラ」は、顔がシイラに似ているという説と、船酔いで苦しんでいるクルーの目の前で、わざとむしゃむしゃ物を食うのが、魚のシイラの旺盛な食欲とを関連付けたのだという話を、確か石原 慎太郎さんのエッセイで読んだことがあります。

お父さんが海軍大将で、原宿の竹下通りは竹下邸のあった所から付いた名前です。

鳥羽レースの帆走委員長も何度もなさっていますが、合併前の日本ヨット協会とNORCの両方に軸足を置いておられました。

お姉さんも戦前からのヨット乗りで、戦前に行われた初島レースにも乗艇されていました。丹羽徳子さんの先輩です。

(実行委員会注釈「戦前に行われた大島レース」:戦前には日本最古のヨットクラブ「横浜ヨットクラブ」を模して日本人が作った「横浜セーリングクラブ」が主催して、大島レースを1回、初島レースを4回開催しました。)

(実行委員会注釈「表彰CUPの名称」:各オーナーからの寄贈を受ける時、当時の日本外洋帆走協会の幹部から「本人が生きているうちに個人名の表彰CUPはまかりならん」とのお達しがあったとのこと)

白崎さんにご説明いただきましたように、パールレースの表彰CUPは、これまでにご参加されました艇オーナーからの寄贈で積み上げてきました。参加されるみなさまで築き上げてきたヨットレースとして、みなさまに親しまれ、永く愛されたレースであり、今後もこの軸を外れないように継続していきたいと思えます。

第52回パールレース実行委員会

P S. 引き続き参加艇オーナーからの表彰CUPの寄贈を受け付けております。

奮っての御寄贈をお待ちしております。